

団長の心のものさし

4月を振替って
難しい時期が終わり
悩める合唱団

出席できて幸せ?欠席者は悪者?

どこの合唱団でも練習へのメンバーの参加率が話題になる。特に年度替りのこの時期には欠席が目立つから。一般的には参加しているメンバーが欠席しているメンバーを非難するといふ、非常に当たり前の反応を見せるから笑える。本質的な反応ではないからだ。

合唱が好きだから、練習であれ本番であれ、自主公演であれ招聘事業であれ協力事業であれ、いつでもどこでも歌える喜びを感じて当たり前だと思わない?それなのに・・・である。もっと真理をみつめる力が要る。

要するに“好きで歌っている。”はずなのに、上手いかないと他人の所為にするわけである。楽しければ独り占めしたいくせに!

もし“最高級のリゾートホテルで一週間無料で自由に過ごしていいですよ!ただし、10名様だけです。”と

いう話が舞い込んだら、きっと多くの希望者が集まらないほうがいいと考えるはず。合唱の練習をリゾートに例えるのもどうかとは思いますが、自分が好んでやっていることであれば、まだ独り占め感の方が分かり易い。

日本人特有の“お勉強モード”のなせる業かもしれない。「私はこんなに頑張っているのに」という声が聞こえてくる。そのことは悪くない。でも頑張るもない。それ、当たり前だから。では、その当たり前のことが出来ないから許せないということか?

参加できないことは悲しい

当たり前のことが出来ないことは、許せないことではなくて、悲しいことではないだろうか。だから責めることなど到底出来ないと思うのだが。違うだろうか?

人間って、特に日本人って、対極にあるものをより遠ざけること、批判することで、自分を正当化する傾向



欠席が多くて悩める合唱団は多い。そのことは本質を見極める原点になるだろう

にある。

まずは自分自身だ。徹底的に楽しむ姿勢を貫いて欲しい。楽しめない、やりきれない・・・達成感を感じようとしな。上手くいけば便乗して・・・こういうスタイルが、癖がついていないだろうか?

反対どころか賛成もしない

この姿勢は意見の持ち方にも影響している。

いろんな場所で話し合いをする機会が多いが、一つの意見について、どうしても受け入れがたい場合は別として、了解できる内容であるにもかかわらず「賛成」といわない。賛成するものは、その意見を応援しなければならぬ。自分が出した意見ではなくても、自分の代弁者として支持すべきであろう。どこまでも他人任せだ。上手いかなかった時の逃げ道なのだろうか?言った者勝ち、やった者勝ちではないようだ。言い出しっぱは最後まで一人で責任を負わされるのだ。だから意見を言わない、リーダーにならない。ちょっと強い姿勢に出ると“強行”、“独裁”と批判する。この日本人を守るのは“民主主義”ではなく“寛大なる独裁者”、しかない!と言いたくなるほどに。自分で判断しない、人を気にする・・・いずれもある意味、“美德”と理解されてきた点でもあるが、間違った方向に行き着いている感がある。

形だけの民主主義は意味がない。民主主義は個人が相当なリスクを背負い、責任を権利以上に負うから成り立つのである。まだ発展途上だ。

いつも言っている。合唱団は社会の縮図だ。同じ志を持つ有志だからこそ“求め”なければならない。



練習に参加することは楽しいことのはず

うたおにの4月26日(月)の様子

練習内容

「Zigeunerlieder」より

He! Zigeuner!

「コタンの歌」より

臼搗き歌

ムックリの歌

パンンペ・ペナンペのリムセ

カエルの子守歌

あまり急がずにいこう、ということで「ジプシーの歌」は基本的に毎回一曲かな。ドイツ語だし、新しいメンバーも入ったから。その代わり確実にモノにして行って欲しい。本当に合唱するのに基本的な要素がたくさん詰まっているから。直球勝負だよ!変化球じゃない。最速の球を投げられるように努力しよう。真の格好よさを求めないでね。